

西郷・大久保の精神的支柱「島津いろは歌」を編した

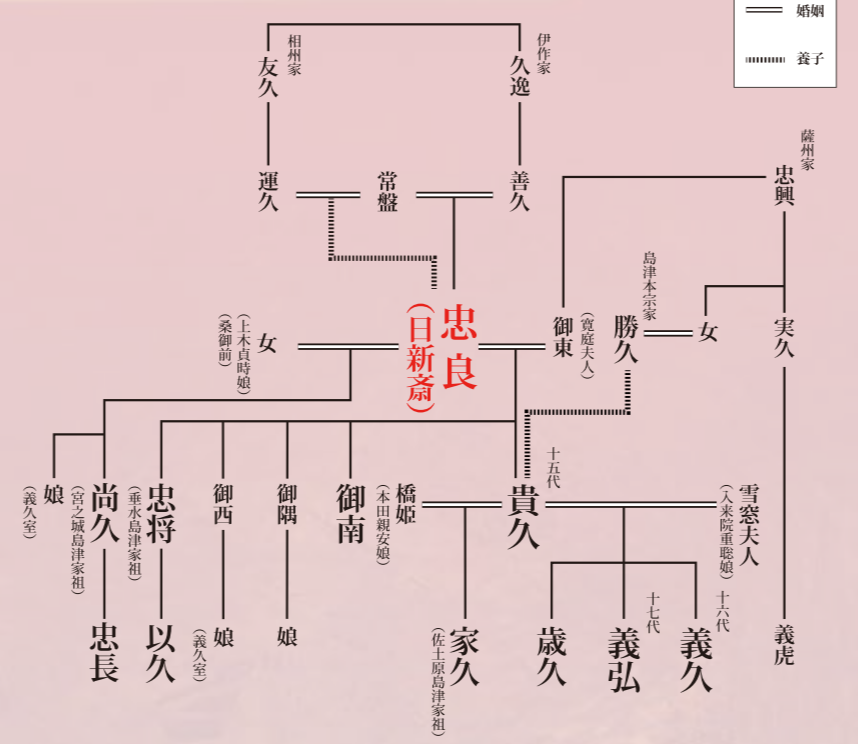
# 島津日新公を たずねて

没後四五〇年

## 島津日新公いろは歌とは

島津忠良は、神道・儒教・仏教を合わせた宗教観を持ち、戦乱の世を行く抜くための精神教育にも熱心な一面を有していました。そのため、薩南学派の祖とされる桂庵禅師の高弟である舜田や、その弟子の舜有を師としながら儒学も積極的に学んでいました。特に加世田攻略に成功した後、増大化する家臣団の指導や教育が必要とされてきた天文15（1546）年、いろは47文字でそれぞれ始まる47首の和歌に、規範となる教えを表現しました。この和歌集は、島津氏とも関係の深い摂関家筆頭の近衛家の植家にも贈られ、絶賛されることとなります。これは「教え」の要素だけでなく、和歌としての完成度の高さを示すものでもありました。天文19（1550）年には隠居して剃髪し、愚谷軒日新斎を号するようになり、「いろは歌」は子の貴久や孫となる義久や義弘などにも受け継がれていくこととなります。さらに戦国期から江戸期へと時代や体制が変わっても、代々の島津家当主は「いろは歌」を家臣団の精神鍛錬のために採用し、西郷隆盛や大久保利通らも学んだ郷中教育の現場でも教典とされ続けました。もちろん、現在でも「いろは歌」を教育目的に活用する事例も多々にあります。このように時代を超えて、鹿児島の人々の精神性に影響を与え続けているのが「いろは歌」なのです。

## 戦国島津系図



## 島津忠良年表

- 明応元年（1492） 伊作亀丸城で誕生。
- 明応3年（1494） 父・善久死去。
- 明応9年（1500） 祖父・久逸死去。
- 文亀元年（1501） 母・常盤、島津相州家運久と再婚。
- 永正10年（1513） この年までに伊作家と島津相州家を相続。
- 永正11年（1514） 貴久、誕生。
- 大永5年（1525） 母・常盤死去。
- 大永6年（1526） 貴久、島津本宗家養子に決まる。
- 大永7年（1527） 島津薩州家の実久が貴久を攻撃、勝久は貴久の本家家督相続を反故にする。
- 天文2年（1533） 貴久、初陣を飾る。
- 天文7年（1538） 加世田を攻略。
- 天文8年（1539） 養父、運久死去。
- 天文15年（1546） 「日新公いろは歌」が前関白・近衛植家に献上される。
- 天文19年（1550） 加世田に隠居。
- 永禄4年（1561） 孫の義久に対して五箇条の教訓条を与える。
- 永禄11年（1568） 加世田で病没。

## 日新公のことが学べる施設

- 加世田郷土資料館**  
 【開館時間】 午前9時～午後5時  
 【休館日】 火曜日（火曜日が祝日の場合は翌日）・祝日・年末年始・館内整理期間（2月上旬）  
 【観覧料】 無料  
 【住所】 鹿児島県南さつま市加世田川畑 2650-1  
 【電話】 0993-53-2111（内線 2836）
- 吹上歴史民俗資料館**  
 【開館時間】 9時～16時30分  
 【休館日】 土曜日、日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）  
 【観覧料】 100円  
 【住所】 鹿児島県日置市吹上町中原 2568  
 【電話】 099-296-2124

発行 鹿児島県鹿児島地域振興局、南薩地域振興局  
 編集 特定非営利活動法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会  
 表紙 島津忠良肖像（尚古集成館蔵）

## 島津忠良こと日新公の人生

島津家中興の祖と称される島津忠良こと日新公は、島津本家ではなく分家となる伊作島津家に生まれました。幼少の頃は、南九州一帯も群雄割拠の時代で、父や祖父を相次いで失うなど不幸な出来事が連続します。それでも学問に励み、母・常盤の尽力もあって島津相州家の跡継ぎにもなります。さらに成長するごとに徳や知識、人望を積み上げて、息子の貴久を島津本家の当主とすることになります。しかし、こうした動きが薩州島津家などの抗争を激化させることとなりますが、家臣や貴久らとともに数々の困難を乗り越えていきます。こうした中、家臣や家族らの精神教育にも熱意をもって取り組み、現在にまで受け継がれている「日新公いろは歌」を完成させることとなります。また、敵味方両方の供養を目的とした六地藏塔の建立や先祖の菩提を弔いたための寺院などの保護といった信仰心の深さも日新公の魅力のひとつでもあります。永禄11（1568）年12月13日に加世田において、77歳で亡くなり、今年には没後450年にあたります。戦国期を駆け抜けた武将の生涯と教えをもう一度振り返る機会としたいものです。



**1 亀丸城跡(伊作城跡)** 日置市吹上町  
伊作島津氏の居城。明応元(1492)年に島津忠良は、この城で誕生した。空輪や空輪などが程よく残り、本丸跡には石塔が並ぶ。忠良の孫にあたる島津義久や義弘なども当城に生まれた。



**2 多宝寺跡** 日置市吹上町  
臨済宗の寺院で、伊作島津家の菩提寺であった。戦乱によって不慮の死を遂げた祖父・久逸や父・善久などの石塔も並ぶ。明治2(1869)年の廃仏毀釈によって廃寺となり、その後石亀神社が建立された。



**3 大汝牟運神社** 日置市吹上町  
創建年代は古く、鎌倉期ともされている。天文7(1538)年に忠良は、加世田城を攻める際に当社に祈願。戦勝が叶えられ、後に流籠馬が奉納されるようになったという。境内の楠木などの古木も庄巻。



**4 海蔵院跡** 日置市吹上町  
応永5(1398)年に伊作島津氏によって建立された真言宗の寺院。忠良は7歳から15歳まで8代住職の頼増に預けられ、厳格な教育を受けたとされている。跡地には歴代住職などの石塔が並ぶ。



**6 田尻神社** 日置市吹上町  
忠良の家臣で、数々の戦いに軍功のあった武将・田尻筑兵衛を御祭神とする。



**5 蛭子像** 日置市吹上町  
忠良が亀丸城において彫刻したとされている蛭子像が二体安置されている。文化3(1806)年に一度、その二体は紛失したが6年後に発見されて、現在に至る。失われた際に制作された二体の新しい蛭子像もある。



**1 金峯山** 南さつま市金峰町  
古来より山岳信仰の対象とされてきており、忠良の父が蔵王権現社(現在の金峯神社)に祈願したことにより、忠良が出生したとの逸話も伝わる。天文3(1534)年には当社などの再興にも関わり、忠良は当山の修験者とも深い結びつきがあったとされる。



**2 亀ヶ城跡** 南さつま市金峰町  
島津相州家の居城であり、当主の運久は文亀元(1501)年に忠良の母・常盤御前と結婚した。そのために忠良は、伊作家だけでなく相州家も相続することになり、当城に入る。永正11(1514)年に当城で、長男貴久が誕生する。



**3 和多利神社** 南さつま市金峰町  
明治初年の廃仏掃蕩以前まで、相州島津氏と関係の深い花蔵院上宮寺があった。明治3(1870)年に島津忠義によって、島津運久と島津忠良を御祭神とした神社を建立した。



**4 高良神社** 南さつま市金峰町  
御祭神は玉依姫命など。忠良は天文7(1538)年の加世田城攻めの際に、当社に戦勝を祈願している。



**2 野間神社** 南さつま市金峰町  
かつては別の場所にあったが、天文4(1535)年に忠良によって現在地に移された。当時は、戦の神様として信仰されていた。



**5 南方神社** 南さつま市金峰町  
かつては別の場所にあったが、天文4(1535)年に忠良によって現在地に移された。当時は、戦の神様として信仰されていた。



**6 常珠寺跡** 南さつま市金峰町  
相州島津家の菩提寺で福昌寺などの末寺でもある。森の中に島津忠良を含む歴代当主の墓などが並ぶ。



**7 大年寺跡** 南さつま市金峰町  
天文9(1540)年に島津忠良が父運久の菩提寺を構うために建立された。寺跡には忠良の墓石などもある。



**2 野間神社** 南さつま市金峰町  
かつては別の場所にあったが、天文4(1535)年に忠良によって現在地に移された。当時は、戦の神様として信仰されていた。



**5 南方神社** 南さつま市金峰町  
かつては別の場所にあったが、天文4(1535)年に忠良によって現在地に移された。当時は、戦の神様として信仰されていた。



**6 常珠寺跡** 南さつま市金峰町  
相州島津家の菩提寺で福昌寺などの末寺でもある。森の中に島津忠良を含む歴代当主の墓などが並ぶ。



**7 大年寺跡** 南さつま市金峰町  
天文9(1540)年に島津忠良が父運久の菩提寺を構うために建立された。寺跡には忠良の墓石などもある。



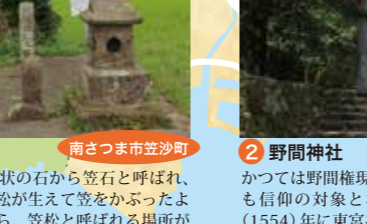
**2 野間神社** 南さつま市金峰町  
かつては別の場所にあったが、天文4(1535)年に忠良によって現在地に移された。当時は、戦の神様として信仰されていた。



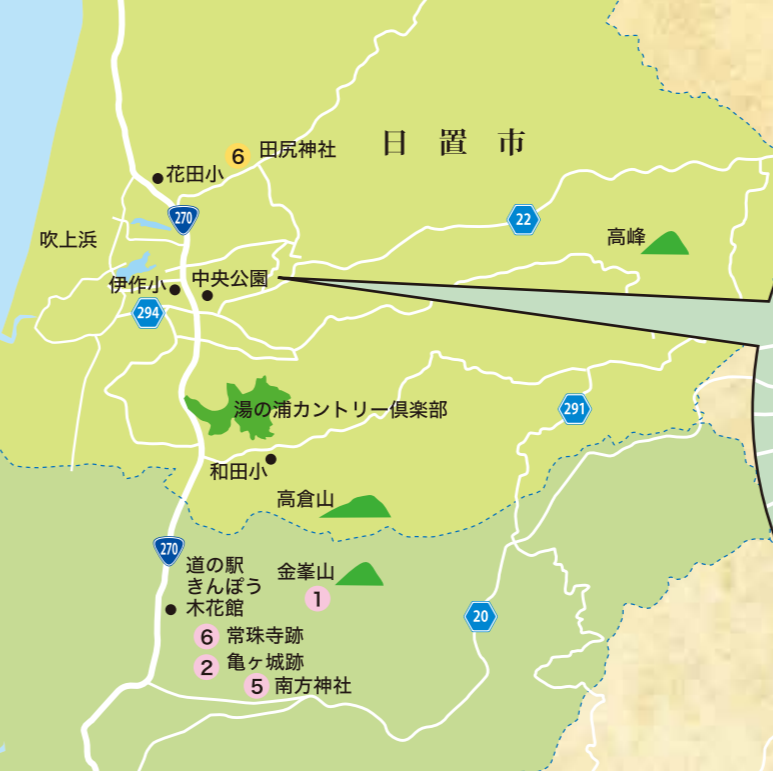
**5 南方神社** 南さつま市金峰町  
かつては別の場所にあったが、天文4(1535)年に忠良によって現在地に移された。当時は、戦の神様として信仰されていた。



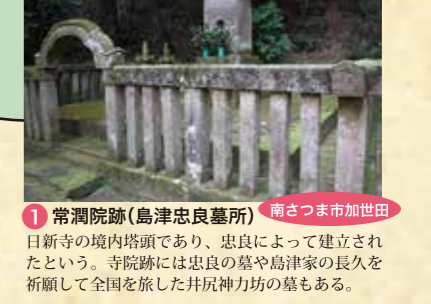
**6 常珠寺跡** 南さつま市金峰町  
相州島津家の菩提寺で福昌寺などの末寺でもある。森の中に島津忠良を含む歴代当主の墓などが並ぶ。



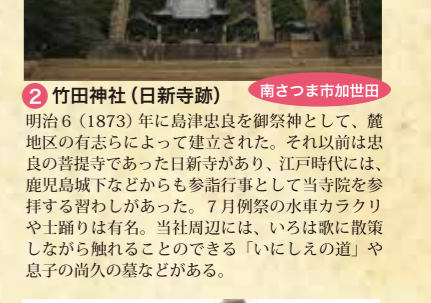
**7 大年寺跡** 南さつま市金峰町  
天文9(1540)年に島津忠良が父運久の菩提寺を構うために建立された。寺跡には忠良の墓石などもある。



# 日新公ゆかりの地を訪ねて



**1 常潤院跡(島津忠良墓所)** 南さつま市加世田  
日新寺の境内塔頭であり、忠良によって建立されたという。寺院跡には忠良の墓や島津家の長久を祈願して全国を旅した井尻神刀坊の墓もある。



**2 竹田神社(日新寺跡)** 南さつま市加世田  
明治6(1873)年に島津忠良を御祭神として、館地区の有志らによって建立された。それ以前は忠良の菩提寺であった日新寺があり、江戸時代には、鹿見島城下などからも参詣行事として当寺院を参拝する習わしがあった。7月例祭の水車カラクリや土踊りは有名。当社周辺には、いろは歌に散策しながら触れることのできる「いにしえの道」や息子の尚久の墓などがある。



**3 六地藏塔** 南さつま市加世田  
天文7(1538)年に加世田を攻略した忠良は、討死した敵味方両方の供養のために二年後に石塔を建立した。その後、石塔は加世田川の洪水によって流失してしまった。現在の石塔は慶長2(1597)年に日新寺の住職によって再建されたもの。



**4 別府城跡** 南さつま市加世田  
忠良は天文7(1538)年に、薩州島津家の拠点となっていた当城を攻略し、死去するまで使用した城。



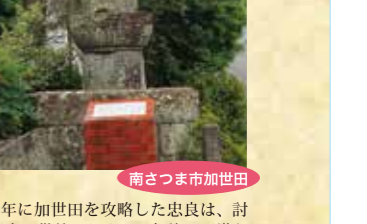
**1 常潤院跡** 南さつま市加世田  
島津尚久の墓  
井尻神刀坊の墓  
寛庭芳宥大姉の墓  
島津貴久の灰塚 加世田中学校



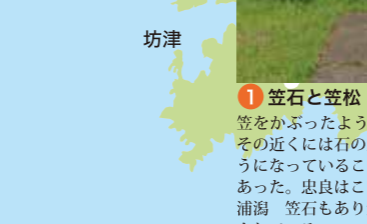
**2 竹田神社(日新寺跡)** 南さつま市加世田  
富松左京の墓



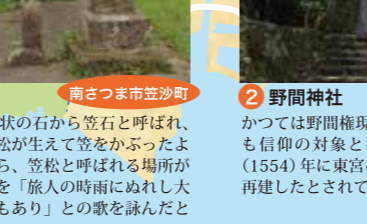
**5 今泉寺跡** 南さつま市加世田  
真言宗の祈願所で、島津日新公も使用したとされる井戸跡が公園に残る。



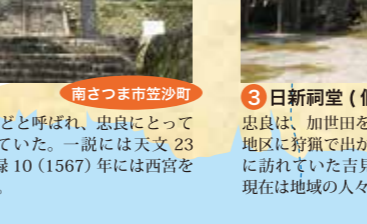
**6 益山山村の供養塔** 南さつま市加世田  
天文7(1538)年の別府城攻めの際に亡くなった敵味方両方のための供養塔。



**1 笠石と笠松** 南さつま市笠沙町  
笠をかぶったような形状の石から笠石と呼ばれ、その近くには石の上に松が生えて笠をかぶったようになっていることから、笠松と呼ばれる場所があった。忠良はこれらを「旅人の時雨にぬれし大浦瀧 笠石もあり笠松もあり」との歌を詠んだとされている。



**2 野間神社** 南さつま市笠沙町  
かつては野間権現宮などと呼ばれ、忠良にとっても信仰の対象となっていた。一説には天文23(1554)年に東宮を永祿10(1567)年には西宮を再建したとされている。



**3 日新祠堂(個人宅内)** 南さつま市大浦町  
忠良は、加世田を拠点としていた頃、周辺の大浦地区に狩猟で出かけていたとされている。その際に訪れていた吉見家に自身の位牌の安置を命じ、現在は地域の人々によって大切に守られている。